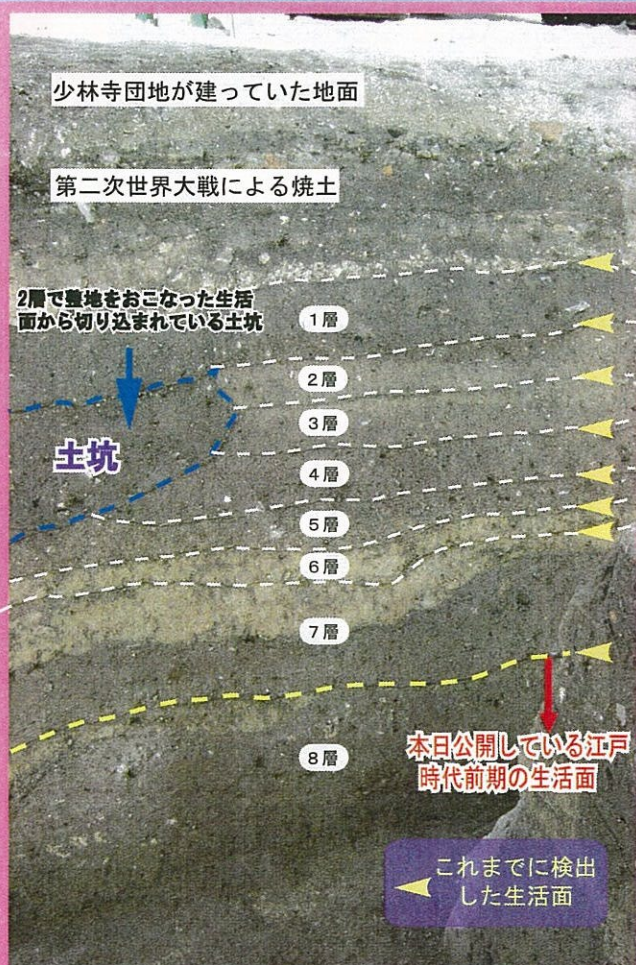


さ か い か ん ご う と し い せ き

堺環濠都市遺跡 (SKT960)

堺の遺跡ガイドシリーズ「堺環濠都市遺跡」(堺市博物館提供)より転載



昭和～近代

近代～
江戸時代末期
(18c後半～)

江戸時代後期
～中期
(18c後半～17c末)

江戸時代前期
(17c末～
17c前半)

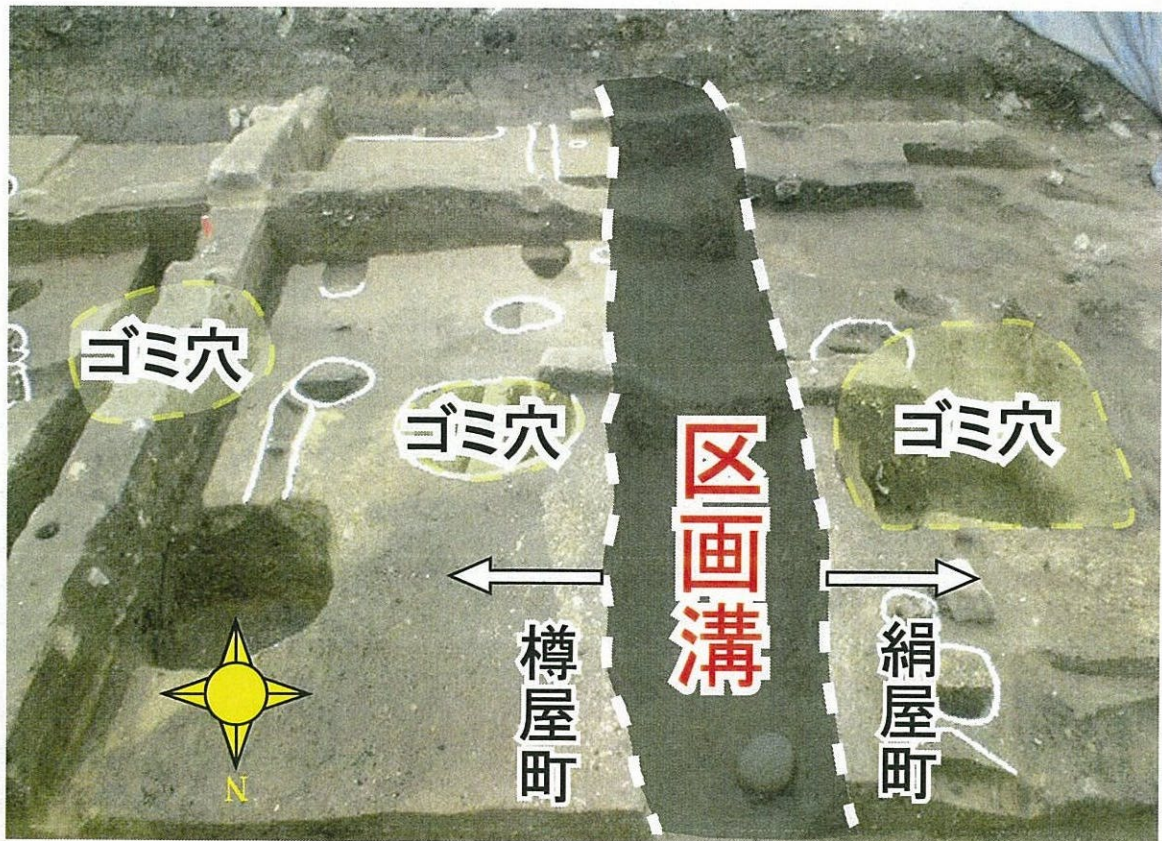
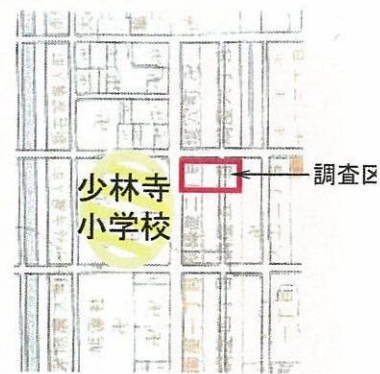
少林寺団地建替えに伴う調査として、2006年12月より発掘を開始しました。堺環濠都市では、火災などがおこると、地面に土を盛り、整地を行って新たに建物を建てる、ということが繰り返されました。現在の少林寺の町並みは、そういった整地層の上に成り立っているのです。建物部分などでは、砂で整地を行った上に粘土を貼ることもあります。(7層上部の黄褐色の部分)

これまでに、江戸時代末期～前期までの、計8面の生活面を調査しました。埋甕・井戸・ゴミ穴・町の境を示す溝・建物の礎石などを発見しました。本日公開しておりますのは、江戸時代前半(17世紀前半)の生活面です。大きな礎石・幅の広い溝・炭のたまった土坑などの生活の痕跡を見つけました。



江戸時代

江戸時代の街並みを推定できる資料として、元禄2年（1689年）に描かれた『堺大絵図』があります。右図は今回の調査の部分だけアップにしたものです。樽屋町と絹屋町があったことがわかります。調査では、区画を二つにわける溝が検出されました。また、それぞれの敷地に伴うゴミ穴も見つかりました。



残念ながら、絹屋町側の敷地は現代の建物によって攪乱をうけ、痕跡をほとんどとどめていません。しかし、樽屋町側では埋甕^{うめがめ}を発見しました。詳しく分析の必要がありますが、糞尿の付着が肉眼では確認できないため、貯蔵用であった可能性が高いと思われます。複数の埋甕が重なり合った状態で検出されたため、同じ場所に繰り返し設置されていたことがわかります。その他に、灰・炭が堆積した竈^{かまど}跡も発見しました。東側（少林寺小学校側）にいくにつれ、竈の大きさが小さくなっています。使い分けがなされていたようです。写真では五連の竈しか写っていませんが、その後の調査で、六連の竈の存在が明らかとなりました。このような竈は珍しく、江戸時代の庶民の生活の貴重な資料となりそうです。



▲ 埋甕

重なるようにして、下に埋甕が設置されていました。



▲ 埋甕

中央の埋甕の下から、もう一つの埋甕を発見しました。



▲ 竈

攪乱をまぬがれた絹屋町側の敷地からは、東西に並ぶ瓦列を発見しました。土留めのための工夫と考えられます。瓦だけでなく、粘土で土留めを行ったところもあり、区画内をさらに細かく区切っていたのかもしれませんが。



▲
◀ 瓦列
(右) 真上から (左) 横から



粘土帯



▲石製の硯と水滴



▲土人形と泥面子



▲ゴミ穴の断面写真

ゴミ穴から出土する遺物は、当時の人々の生活を伝えています。食べ残しなどの有機物は腐ってしまい、発見できませんでした。しかし、下の写真のように、大量の瓦・食器類などが見つかりました。そのほとんどが割れています。使えなくなったものを捨てたのだでしょう。遊びに使われた、泥面子・土人形も出土しています。

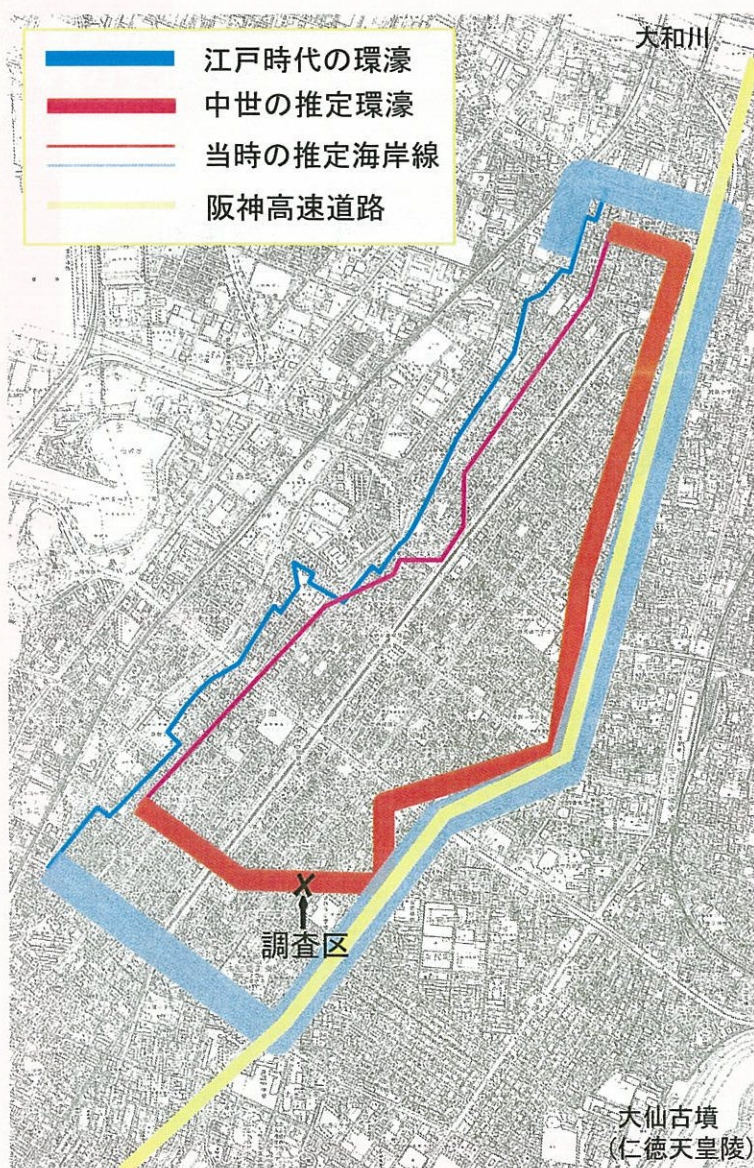


かなんさんさい

▲華南三彩

明の時代に中国南部でつくられました。貴重品で、伝世品として大切に扱われました。

堺環濠都市遺跡は、中世～近世にかけての遺跡で、南北 3km・東西 1km の範囲が指定されています。堺には仁徳陵をはじめとする古墳が多数存在し、古代より人の活動がうかがえますが、堺環濠都市が発展しはじめるのは 13 世紀以降です。室町時代末には、遣明船の発着港となり、貿易都市としての基盤を築きます。特筆すべきは戦国時代で、中国のみにとどまらず、琉球・東南アジアとの対外貿易も始まり、国際都市としての頂点を極めます。また相次ぐ戦乱の中、濠（環濠）で都市を囲い、商業の自由と自治を守り続け、黄金の日々を謳歌します。しかし、豊臣秀吉が権力を掌握すると、自由都市堺の象徴であった濠の埋め戻し令がだされます。そして 1615 年、大坂夏の陣の前哨戦として豊臣方の焼き討ちに遭い、中世の堺環濠都市は終焉を迎えます。その後江戸幕府によって町は復興され、現在の町並みとほぼ変わらない区画で再建されます。都市を囲む環濠も一回り大きく作り直されます。その環濠の上を、現在では阪神高速道路がはしっています。



堺の歴史年表

室町	1399 (応永 6)	応永の乱によって一万戸焼失
	1469 (文明 1)	遣明船が初めて堺に帰着
戦国	1476 (文明 8)	遣明船が初めて堺から出発
	1484 (文明 16)	会合衆が初めて文献に現れる
	1494 (明応 3)	南庄全域？が焼失
	1532 (天文 1)	北庄全域・南庄 1/3 が焼失
	1550 (天文 19)	宣教師ザビエル到来
	1553 (天文 22)	全域の 2/3 を焼失
	1562 (永禄 5)	環濠が初めて文献に記述 (宣教師ガスパル・ビレウの手紙)
	1568 (永禄 11)	織田信長が軍用金を要求
安土桃山	1570 (元亀 1)	織田信長の直轄地となる
	1575 (天正 3)	大火事が起こる
	1586 (天正 14)	豊臣秀吉により環濠埋め戻し
江戸	1600 (慶長 5)	徳川家康が堺に奉行所を置く
	1615 (慶長 20)	大坂夏の陣の余波で堺炎上 江戸幕府の直轄地となる